

3. 専門分野 I

基礎看護学

- 目標： 1. 人間、環境、健康と看護の関係及びそのとらえ方を理解する
 2. 看護における生命の尊厳と、看護職者としての理解を深める
 3. 看護における問題解決思考を習得し看護問題に対する看護方法を学ぶ
 4. 看護を取り巻く保健医療福祉に対する理解を深め看護者としての役割を養う
 5. 看護学生として看護学における看護観を養い、自己教育力を身につける

科目名	単位	時間	講師	科目のねらい	主な内容	1年		2年		3年	
						4～9	10～3	4～9	10～3	4～9	10～3
看護学概論 I	2	60		看護とは何か看護師とはどのような職業か、看護の概念について理解する。	1. 看護とは 2. 看護の対象の理解 3. 国民の健康生活の全体像の把握 4. 看護の提供者 5. 看護における倫理 6. 看護の提供のしくみ	—					
看護学概論 II	1	30		看護実践能力の基礎となる基本的な看護技術を理解する	1. 看護技術とは 2. 看護におけるコミュニケーション 3. セーフティマネジメント	—					
看護研究	1	30		看護の本質を研究のプロセスから理解する。	1. 看護研究とその取り組み 2. 文献検索 3. ケーススタディ			—			
基礎看護学方法論 I	1	30		看護実践としての方法論を学び思考プロセスを学ぶ	1. 看護過程とは 2. 看護過程の展開 3. 指導技術とは 4. 指導方法の実際		—				
基礎看護学方法論 II	2	60		健康的な日常生活行動を促進する援助ができる知識・技術・態度を学ぶ。	1. 生活環境を整える 2. 身体の清潔を保つ 3. 衣服を用いる 4. 姿勢を保つ・活動を整える 5. 睡眠・覚醒の援助 6. 食べる 7. 排泄する 8. 看取りの援助の基本	—					
基礎看護学方法論 III	2	60		治療・処置に伴う援助ができる知識、技術、態度を学ぶ。	1. 感染防止の技術 2. 検査処置に応じた看護 3. 薬物・輸液療法と看護 4. 救急法と看護 5. 手術療法と看護 6. 集中治療と看護		—				
基礎看護学方法論 IV	1	30		生命徴候をモニタリングする知識・技術・態度を学ぶ	1. スクリーニングの技術とバイタルサインの観察 2. フィジカルアセスメント 3. フィジカルアセスメントの技術と演習 4. 経過・症状に応じた看護 5. 苦痛の緩和と看護 (臨床看護総論の内容含む)		—				
基礎看護学方法論 V	1	30		健康障害をもつ対象を理解し状態に応じた援助を考える。	1. 総合演習 I 事例に応じた日常生活援助 2. 総合演習 II 事例に応じた看護過程展開		—				
基礎看護学実習 I	1	45		看護の行なわれている場と入院生活を知り、日常生活援助技術を用いて看護を実践する。	1. 看護活動の実際と場の理解 2. 入院生活を送る対象の理解 3. 日常生活援助の体験 4. コミュニケーション技術の活用 5. 報告、連絡、相談の実際		—				
基礎看護学実習 II	2	90		日常生活の援助技術を用いて看護を実践し、健康障害をもつ患者を理解する。	1. 看護過程展開技術の活用 2. 対象の理解 3. 日常生活援助の実施と自己の課題の明確化 5. 症状にあわせた援助の理解 6. 看護の機能と役割の理解			—			

科目名	看護学概論 I	教育内容	専門分野 I 基礎看護学
担当教員	Ⓜ	単位数 (時間)	2 単位 (60 時間)
科目目標	1. 看護とは「どのような実践であるのか」を意識し、看護の対象としての人間とわが国の健康・生活の全体像を理解する。 2. 社会における看護の提供者、提供のしくみについて理解し、看護における倫理について学ぶ。		
科目概要	回数	科目内容	学習方法
	1	科目ガイダンス ・序章 看護を学ぶにあたって	講義
2	第1章 看護とは 看護の本質		
3	第1章 看護とは 看護の役割と機能		
4	第1章 看護とは 看護の継続性と連携		
5	第1章 課題学習とまとめ		
6	第2章 看護の対象の理解 「人間のこころ」と「からだ」を知ることの意味		
7	第2章 看護の対象の理解 生涯発達しつづける存在としての人間の理解		
8	第2章 看護の対象の理解 人間の「暮らし」の理解		
9	第3章 国民の健康と生活		
10	第3章 国民の健康のとらえ方		
11	第3章 国民の健康状態		
12	第3章 国民のライフサイクルと健康・生活		
13	国家試験対策		
14	まとめ	中間テスト 講義	
15	中間試験およびまとめ		
16	第4章 看護の提供者 職業としての看護		
17	第4章 看護の提供者 看護職の資格養成制度・就業状況		
18	第4章 看護の提供者 看護職者の継続教育とキャリア開発		
19	第4章 看護の提供者 看護職者の養成制度の課題		
20	第5章 看護における倫理 現代社会と倫理		
21	第5章 看護における倫理 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理		
22	第5章 看護における倫理 看護実践における倫理問題への取り組み		
23	第5章 課題学習とまとめ		
24	第6章 看護の提供のしくみ サービスとしての看護		
25	第6章 看護の提供のしくみ 看護サービス提供の場		
26	第6章 看護の提供のしくみ 看護をめぐる制度と政策		
27	第6章 看護の提供のしくみ 看護サービスの管理		
28	第6章 課題学習とまとめ		
29	国家試験対策 学習とまとめ		
30	終講試験および総復習		
評価方法	2回の筆記試験で評価する。		
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1]看護学概論 医学書院 フローレンスナイチンゲール看護覚え書 日看協出版 看護の基本となるもの 日看協出版 看護六法 新日本法規 国民衛生の動向 厚生統計協会		

科目名	看護学概論Ⅱ	教育内容	専門分野Ⅰ 基礎看護学
担当教員	㊟	単位数(時間)	1単位(30時間)
科目目標	1. 看護実践能力の基礎となる基本的看護技術の要素について理解する。 2. 人間関係を形成するためのコミュニケーション技術について理解する。 3. 看護ケアの質的保証における安全管理の重要性を理解し、事故を未然に防ぐ技術について理解する。		
科目概要	回数	科目内容	学習方法
	1 2 3 4 5 6 7	看護技術とは 看護技術の特徴と必要な要素 医療・看護におけるコミュニケーション 関係構築のコミュニケーション 効果的なコミュニケーションスキル コミュニケーション障害を持つ人への対応 GWと体験から学ぶこと 前期試験	講義 演習
	8 9 10 11 12 13 14	ヒューマンエラー セーフティマネジメント インシデントとアクシデントレポートによる振り返り 実習場面におけるリスクトレーニング GW発表と相互評価 多重課題への対応 GW発表と相互評価 後期試験	講義 演習
評価方法	2回の筆記試験で評価する。		
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [2] 基礎看護学技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 学研		

科目名	看護研究	教育内容	専門分野Ⅰ 基礎看護学
担当教員	㊟	単位数(時間)	1単位(30時間)
科目目標	1. 看護研究のプロセスを理解し、自主的学習態度と研究的態度を学ぶ。 2. 看護の本質を理解し、専門職業人としてのあり方を再認識すると共に、自己の看護観を明確にする。		
科目概要	回数	科目内容	学習方法
	1 2 3 4 5 6 7・8 9 10 11・12 13・14 15	看護研究とは 看護研究の種類 基礎知識 質的研究、量的研究、データの活用；統計 文献検索の意義と方法 研究における倫理的配慮 ケーススタディとは ケーススタディのまとめ方 看護研究のプロセス 看護研究の進め方、研究計画書 クリティークすること、その方法 基礎看護学実習Ⅱの事例でケーススタディを作成① 基礎看護学実習Ⅱの事例でケーススタディを作成② 看護研究の発表(演題・発表形式・抄録・口演発表) 発表の実際 自己評価・他者評価の実施 関西看護研究大会への参加 理論試験 総まとめ	講義・演習
評価方法	1回の筆記試験・ケーススタディ評価表・課題提出・出席点で評価する。		
教科書	看護研究 医学書院		
備考	USBの使用、個人情報についての記載に関しては、「個人情報の取り扱い等に関する規定」に準じて取り扱いを行う。		

科目名	基礎看護学方法論Ⅰ	教育内容	専門分野Ⅰ 基礎看護学
担当教員	㊟	単位数(時間)	1単位(30時間)
科目目標	1. 看護過程のもとになる考え方と理論および構成要素を理解する。 2. 本校の情報整理と記録の方法を用いて、看護過程におけるクリティカルシンキングを理解する。 3. 看護における健康教育・相談的対応とその方法を理解する。 4. 看護における健康教育の重要性とその方法について理解する。		
科目概要	回数	科目内容	学習方法
	1 2 3 4 5 6 7 8 9・10 11・12 13 14 15	看護過程とは 「倫理」「クリティカルシンキング」「問題解決過程」 看護過程の構成要素 ヘンダーソンが考える看護の構成と活用、理論の活用 ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程 看護過程展開と本校の実習記録用紙を用いて事例演習 : 基本的ニードの側面、アセスメント、問題の明確化 看護計画の立案、日常生活技術との関連 看護記録の種類(クリティカルパス) 事例演習発表 看護における学習支援とは 教育・相談的役割と機能 指導技術の基本となるもの 事例演習: 指導計画の立案 指導計画の実践・評価 演習まとめ 終講試験およびまとめ	講義・演習
評価方法	1回の筆記試験、看護過程の演習記録、出席点で評価する。		
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ 医学書院 エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 中央法規 看護過程を使ったヘンダーソン看護理論の実践 ヌーベルヒロカワ ヘンダーソン基本的看護に関する看護問題リスト ヌーベルヒロカワ 電子辞書; 治療薬マニュアル 別巻 臨床検査 医学書院 ほか		

科目名	基礎看護学方法論Ⅱ	教育内容	専門分野Ⅰ 基礎看護学
担当教員	㊟	単位数(時間)	2単位(60時間)
科目目標	1. 人間にとっての環境、活動と休息、清潔、栄養、排泄を看護の視点から捉え、対象の日常生活を調整していくための基礎的知識と援助技術を習得する。 2. 死の看取りの基礎知識とケアについて理解する。		
科目概要	回数	科目内容	学習方法
	1～3 4～6 7～13 14・15 16～22 23～27 28 29・30	生活環境を整える 姿勢を保つ・活動を整える 睡眠・覚醒の援助 身体の清潔を保つ 衣服を用いる 筆記試験・技術試験A 食べる 排泄する 死の看取りの基本 筆記試験・技術試験B(時間外)	講義・演習
評価方法	2回の筆記試験および実技試験A・Bにより評価する。 実技試験は、「実技試験A評価表」「実技試験B評価表」に基づき評価する。		
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 学研		

科目名	基礎看護学方法論Ⅲ		教育内容	専門分野Ⅰ 基礎看護学
担当教員	㊟		単位数 (時間)	2単位 (60時間)
科目目標	1. 診断・治療を受ける患者の特徴を理解し、必要な援助方法を理解する。 2. 診断・治療技術に対する基礎的知識と援助技術を習得するとともに、身体侵襲を伴う技術における看護の責任を理解する。			
科目概要	回数	科目内容	学習方法	
	1～5	感染防止の技術	講義・演習	
6～10	検査処置に応じた看護			
11～21	薬物・輸液療法と看護			
22～26	救急法と看護 救急法の実験体験を含む			
27・28	手術療法と看護 集中治療と看護			
	29・30	筆記試験・実技試験D		
評価方法	1回の筆記試験および 実技試験Dにより評価する。 実技試験は、「実技試験D評価表」に基づき評価する。			
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔4〕臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床検査・救急看護・臨床外科看護総論 医学書院 看護技術プラクティス 学研 電子辞書；治療薬マニュアル			

科目名	基礎看護学方法論Ⅳ		教育内容	専門分野Ⅰ 基礎看護学
担当教員	㊟		単位数 (時間)	1単位 (30時間)
科目目標	1. 健康状態を査定するために必要な基礎的知識を理解する。 2. スクリーニングとフィジカル・アセスメントの基本技術を習得する。 3. 経過や症状をふまえた援助の必要性について理解し、基本的な援助技術を習得する。			
科目概要	回数	科目内容	学習方法	
	1～2	看護におけるフィジカル・アセスメント 診察における看護の役割、身体計測、スクリーニングの技術	講義・演習	
3～6	バイタルサインの観察			
7～9	フィジカル・イグザミネーションの実際			
10	経過に応じた看護			
11～14	症状に応じた看護 苦痛の緩和と援助 ・呼吸困難緩和援助 ・体温を調整するための援助			
	15	終講試験 および まとめ		
評価方法	1回の筆記試験により評価する。			
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔4〕臨床看護総論 医学書院 フィジカルアセスメントがみえる メディックメディカ 看護技術プラクティス 学研 電子辞書；症状からみた看護過程の展開			

科目名	基礎看護学方法論Ⅴ		教育内容	専門分野Ⅰ 基礎看護学
担当教員	㊟		単位数(時間)	1単位(30時間)
科目目標	1. 学習してきた知識や技術から、臨床事例の状況にあわせた看護技術を統合・応用し、日常生活援助を考え実践する。			
科目概要	回数	科目内容		学習方法
	1・2・3 4・5 6・7 8・9・10 11・12・13 14・15	総合演習1 臨床事例にあわせた日常生活援助の考え方 日常生活援助における看護介入 筆記試験・実技試験C 総合演習2 臨床事例にあわせた検査・治療における援助の 考え方、検査・治療における看護介入 事例に対する観察項目、観察技術 筆記試験・実技試験E		講義・演習
評価方法	2回の筆記試験(介入計画立案)および実技試験C・Eにより評価する。 実技試験は、「実技試験C評価表」および「実技試験E評価表」に基づき評価する。 総合演習1・2は、出席・課題提出状況も加味し評価する。			
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔4〕臨床看護総論 医学書院 看護技術プラクティス 学研 看護過程を使ったヘンダーソン看護理論の実践 ヌーベルヒロカワ ヘンダーソン基本的看護に関する看護問題リスト ヌーベルヒロカワ エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 中央法規 フィジカルアセスメントがみえる メディックメディカ 電子辞書;治療薬マニュアル、症状からみた看護過程の展開			

科目名	基礎看護学実習Ⅰ		教育内容	専門分野Ⅰ 基礎看護学(臨地実習)
担当教員	㊟		単位数(時間)	基礎看護学実習Ⅰ 1単位(45時間)
実習目的 および 実習目標	(目的) 1. 看護の行なわれている場と患者の入院生活を知り、既習の日常生活の援助技術を用いて看護を実践する。 (目標) 1. 看護活動の実際を見学し、援助を実践することで、自己を振り返り課題を明確にする。 実習要項 参照			
科目概要	科目名	科目のねらい		時間数
	基礎看護学実習Ⅰ	看護活動の実際を見学や患者との関わりを通して学び、看護や患者への興味・関心を高める。		45
評価方法	基礎看護学実習Ⅰの評価表に基づき評価する。			
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔1〕看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔4〕臨床看護総論 医学書院 看護技術プラクティス 学研 エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 中央法規 看護過程を使ったヘンダーソン看護理論の実践 ヌーベルヒロカワ ヘンダーソン基本的看護に関する看護問題リスト ヌーベルヒロカワ フィジカルアセスメントがみえる メディックメディカ 電子辞書;治療薬マニュアル、症状からみた看護過程の展開			

科目名	基礎看護学実習Ⅱ	教育内容	専門分野Ⅰ 基礎看護学（臨地実習）	
担当教員	㊦	単位数（時間）	基礎看護学実習Ⅱ 2単位（90時間）	
実習目的 および 実習目標	<p>（目的） 1. 日常生活を整えるための援助を実践し、健康障害をもつ患者の基本的欲求をふまえた看護を理解する。</p> <p>（目標） 1. 患者の基本的欲求と日常生活上の問題を知り、患者に必要な援助、行いたい援助を考え実践する。</p> <p>実習要項 参照</p>			
科目概要	科目名	科目のねらい	時間数	実習施設
	基礎看護学実習Ⅱ	患者の基本的欲求と日常生活上の問題から、必要な援助、行いたい援助を考える看護の視点を養う。	90	病棟
評価方法	基礎看護学実習Ⅱの評価表に基づき評価する。			
教科書 参考書	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔1〕看護学概論 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔4〕臨床看護総論 医学書院</p> <p>看護技術プラクティス 学研</p> <p>エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 中央法規</p> <p>別巻 臨床検査 医学書院</p> <p>看護過程を使ったヘンダーソン看護理論の実践 スーベルヒロカワ</p> <p>ヘンダーソン基本的看護に関する看護問題リスト スーベルヒロカワ</p> <p>フィジカルアセスメントがみえる メディックメディカ</p> <p>電子辞書；治療薬マニュアル、症状からみた看護過程の展開</p>			